

相談支援専門部会意見整理表

整理番号	提案等委員	内容	六次計画への位置付け（案）
1	伊藤委員	重度の身体障害等により長期療養している人が相談支援に繋がることなく孤立している現状と課題がある。	・現状と課題に記載 ・（１）⑩様々な要因により地域社会や家族から孤立し、相談支援機関やサービスの利用に繋がっていない障害のある人に対し、市町村や関係機関と連携した相談支援の推進に努めます。
2	飯田委員	発達障害に対応できる医療機関だけでなく、相談機関や専門職の育成・確保が必要。	・現状と課題に記載 ・（１）⑧発達障害のある人が可能な限り身近な地域で必要な支援が受けられるよう、千葉県発達障害者支援センター（ＣＡＳ）を拠点として、市町村・事業所等のバックアップや専門性の高い人材の養成を目的とした研修等を行うとともに、地域支援マネージャーの配置などを含めた地域支援機能の強化等について、発達障害者支援地域協議会において検討を行います。
4	飯田委員	教育機関との連携についての記載が必要。	・現状と課題に記載 ・（３）③障害の可能性が見込まれる子どもが適切な療育に繋がるよう、相談支援専門員と 児童発達支援センターや障害児療育等支援事業関係者、子ども・子育て支援事業における利用者支援専門員、特別支援教育コーディネーターなどとの発達段階に応じた連携の推進に努めます。
3	田中委員	相談支援専門員と利用者支援専門員等との連携が必要。	・現状と課題に記載 ・（３）③障害の可能性が見込まれる子どもが適切な療育に繋がるよう、相談支援専門員と 児童発達支援センターや障害児療育等支援事業関係者、子ども・子育て支援事業における利用者支援専門員、特別支援教育コーディネーターなどとの発達段階に応じた連携の推進に努めます。
4	宇治原委員	ピアサポートについて、事業者向け場を作る必要がある。	⑫ 障害のある人の経験や能力を活かすとともに社会参加を促進するため、ピアサポーターが支援者へとキャリアアップできるよう研修を実施するとともに、就労へ繋がるよう関係機関に対するピアサポートの普及や環境づくりに努めます。
6	岸委員	矯正施設に入所する人の退所後の支援だけでなく、地域の中で孤立等によりサービス利用に繋がっていない知的や発達障害の人に対する支援。	・現状と課題に記載 ・（１）⑩様々な要因により地域社会や家族から孤立し、相談支援機関やサービスの利用に繋がっていない障害のある人に対し、市町村や関係機関と連携した相談支援の推進に努めます。
7	朝比奈委員	包括的な相談支援体制づくりに基幹相談支援センターが重要な役割を果たすことを記載する。	・現状と課題に記載 ・④基幹相談支援センターによる総合的・専門的な相談支援、相談支援事業所に対する助言や人材育成、関係機関の連携などの中核的な役割と、計画相談支援事業所、委託相談支援事業所の役割分担について、市町村と連携した研修会等の開催により情報共有を図り、市町村における設置を支援します。また、国に対しては基幹相談支援センターの運営に十分な財源の確保を要望します。 ・⑤ 介護支援専門員を対象とする障害福祉サービスに関する研修の実施、市町村における地域包括支援センターと相談支援事業所との併設や連携、基幹相談支援センターの設置促進による機能強化などを含め、地域共生社会の実現に向けた包括的な相談支援体制の充実に取り組みます。
8	伊藤委員	基幹相談支援センター、委託相談支援事業所、計画相談支援事業所の役割分担の現状と課題に対し、今後の取り組みとして明確にする。	・現状と課題に記載 ・④基幹相談支援センターによる総合的・専門的な相談支援、相談支援事業所に対する助言や人材育成、関係機関の連携などの中核的な役割と、計画相談支援事業所、委託相談支援事業所の役割分担について、市町村と連携した研修会等の開催により情報共有を図り、市町村における設置を支援します。また、国に対しては基幹相談支援センターの運営に十分な財源の確保を要望します。
9	田中委員	相談支援専門員と教育支援コーディネーターの相談レベルの連携が必要。	・現状と課題に記載 ・（３）③障害の可能性が見込まれる子どもが適切な療育に繋がるよう、相談支援専門員と 児童発達支援センターや障害児療育等支援事業関係者、子ども・子育て支援事業における利用者支援専門員、特別支援教育コーディネーターなどとの発達段階に応じた連携の推進に努めます。
10	飯田委員	矯正施設からの地域移行について、体験入所や施設見学などが制度として機能していない現状と課題がある。	・現状と課題に記載 ・（１）⑪矯正施設に入所する障害のある人が、出所後に必要な福祉サービスを受けられるよう、地域生活定着支援センターと相談支援事業所との連携支援に取り組みます。